

1. 略歴

- 1987年 3月 早稲田大学教育学部社会科社会科学専修卒業
- 1987年 4月 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程政治学専攻入学
- 1990年 3月 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程政治学専攻修了（政治学）
- 1990年 4月 早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程政治学専攻入学
- 1993年 5月 早稲田大学人間科学部助手（1996年3月まで）
- 1996年 3月 早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程政治学専攻単位取得満期退学
- 1998年 4月 昭和音楽大学音楽学部助手
- 2000年 4月 静岡文化芸術大学文化政策学部講師
- 2001年 1月 博士（人間科学）
- 2004年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2007年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（職名変更）

2. 主な研究活動

a 専門分野

文化資源学（文化政策学）

b 研究課題

文化を支える諸制度、それと反対のベクトルである文化の発展を阻害する制度について関心をもってきた。研究の中心を法制度においてきたが、最近では国や自治体の文化政策のドラスティックな動きに対して、文化にとってよりよい政策の企画、立案、執行のあり方について考えている。とくに行政改革が現実に行われ、市町村合併の推進及び2003年に地方自治法改定で施行された指定管理者制度が導入される状況の中で、公立文化施設（美術館、文化ホール等）の望ましい運営方法とそれを管理する文化政策のあり方を研究の対象としてきた。

他方、芸術を支える制度としての劇場についても関心を持っており、この数年はドイツの劇場のあり方をめぐる動向、それを取り巻く文化政策、環境について関心をもって研究している。とはいえ、そもそも「制度」そのものについて疑問をもっていることから、あるべき「制度」に固執しているわけではない。むしろ「制度」を超えた活動、とくにドイツの社会文化活動とそれを巡る政策に大いなる関心を持っている。

c 主要業績

(1) 著書

共著書『アクセス公共学』（日本経済評論社、2010年）

共編著『公共劇場の10年—舞台芸術の公共性の現在と未来』（美学出版、2010年）

(2) 論文

小林真理、「地域に住まう—文化でつながるコミュニティの可能性」、『住宅』、3-10頁、2010.7

Mari Kobayashi、「The problems of cultural policy in Japan: An uncertain Future for Regional Theaters and Concert Halls」、『International Arts Management Concepts- Higher Education for the Market?』、2011.3

小林 真理、「自治体博物館の全体像—その法制度と直面する課題」、『都市問題』、2011.11

(3) 学会発表

国内、小林真理、「自治体文化行政における制度形成の課題—市民協働の方法と大学の媒介機能」、文化経済学会＜日本＞2010年研究大会、2010.7.3

(4) 研究報告書

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室・小金井市コミュニティ文化課、「小金井市芸術文化振興計画推進事業協同研究報告書2009-2011」、2012.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、早稲田大学「法学」「政治学英書講読」

(2) 学会

国内、日本文化政策学会理事

国内、文化経済学会<日本>理事

国内、日本アートマネジメント学会、一般会員、2010.4～

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

国際交流基金、事業プログラム外部評価委員、2010.4～

神奈川県立藤野芸術の家指定管理者外部評価委員会、委員、2010.6～

公益財団法人 武蔵簿文化事業団、評議員、2011.4～

日本学術振興会、特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員、2011.8～